

大草谷津田いきものの里 自然観察会

谷津田でアート

山岸 文子（千葉市）

日 時：2015年11月1日（日）10：30～12：00 天候：晴

参加者：9名（大人7名、子ども2名）

担当指導員：佐藤一枝、山岸文子

風も無く穏やかで絶好の観察会日和と思いきや、わかば区民祭をはじめ、様々なイベントと重なってしまった。入口広場では東邦大の学生の靱摺作業が始まった。注意事項の説明もそこそこに散策路に入る。

「アート」大好きな2家族は持参したレジ袋に落ち葉を集めながら歩く。落ち葉を踏みカサカサという音を楽しんだり、大きなミミズにびっくりしたり・・・。

スギに絡みついたツタウルシを指し、綺麗な葉っぱだけとかぶれるから絶対触っちゃダメよと念を押す。林縁のアズマネザサにオオアオイトトンボがいた。昆虫に詳しいKさんから♂♀の区別と、「これから田んぼの上に張り出した枝に卵を産むんだよ」と説明を受ける。

田んぼのそばにブルーシートを広げ、「アート」の始まり始まり！ 佐藤さんが用意した色画用紙の短冊に両面テープで貼りつけていく。紅葉したカキの葉、モミジ、ヤブミョウガの実、フウセンカズラの実、スギの葉、稲穂等々、皆さん色彩感覚の素晴らしい事！ 細縄にカニクサを巻きつけてリース。

松ぼっくりを表裏向きを変え（頭、胴体、手足と6個）組み合わせ、クリのしいなを耳にナンキンハゼの白い実をつけて熊さんの出来上り。接着剤が乾く間に糊と水でこねた糠ねんどを出す。古代米の緑米なので糠もきれいな緑色をしている。珍しかったようで男の子が早速おむすびを作った。パクッとかじったのには驚いたが大丈夫。無農薬だし、糊も今朝米の粉で作ったばかりだから。次は佐藤さんの御主人の力作。5cm程の高さの青竹の上に松ぼっくりが乗っていて、見るからに可愛いクリスマスツリーになりそうなのに、残り時間が少なくなってしまった。



木の枝に渡した竹竿とベンチの上にアート作品を並べて記念撮影。それぞれの作品と松ぼっくりミニツリーを大事に持ち帰って頂いた。

「学校では図工の時間が一番好き」という女の子。「ずっと来たかった。初めて来て良かった」という男の子とお母さん。夢中になって取り組む姿に癒されました。「楽しかった。また来たい」指導員冥利につける言葉をありがとう。